佐伯市生活支援体制整備事業を中心とした移動支援サービス立ち上げへの取組

佐伯市役所高齢者福祉課
地域包括支援センター
担当　堀江

2.21　本日の報告内容

1、佐伯市の概況

2、佐伯市の地域課題

3、支援団体①弥生地区のサービス創出に向けて

4、支援団体②直川地区のサービス創出に向けて

5、行政としてできること

佐伯市の概況

基本情報（R5．3月末）		
面　積		903.11㎢
人　口		66,576人
第1号被保険者数		27,574人
	65～74歳	12,022人
	75歳以上	15,552人
高齢化率		41．45%

※住民基本台帳

要介護認定率の推移

年度	認定率（%）
H29	14．0
H30	14．4
R1	14．7
R2	15．0
R３	15．5
R４	15．5

※介護保険事業状況報告（年報）

介護認定者数（第1号被保険者）
（R5.3月末）

要支援1	349人
要支援2	451人
要介護1	932人
要介護2	642人
要介護3	529人
要介護4	816人
要介護5	590人
計	4，309人

※介護保険事業状況報告（第2号含む）

※日常生活圏域は3圏域

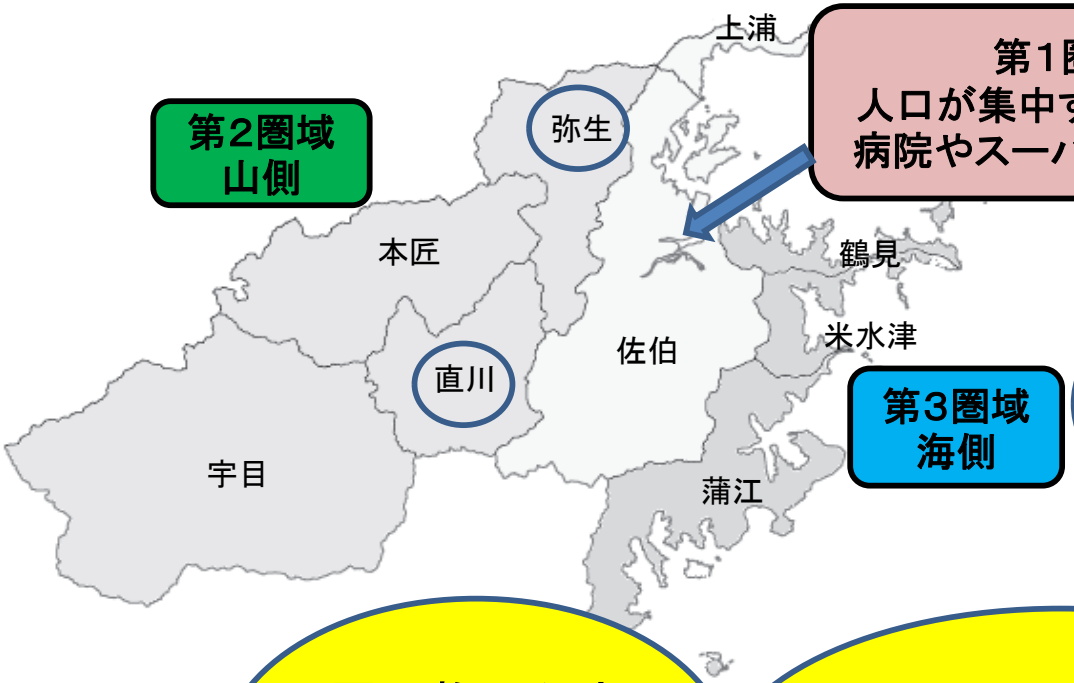
→地域包括支援センターは直営で1か所設置

委託で2か所設置（第2・第3圏域）

佐伯市の地域課題（地域ケア会議より）

地域ケア会議の地域課題
の大半は“移動支援”

九州一広い「佐伯市」
移動手段は、自家用車が主！



第2圏域
山側

第1圏域
人口が集中する市街地、
病院やスーパーなど集中

第3圏域
海側

バス停までの距離
があり、デマンド
バス利用できない。

サロンは、助け合い
高齢者の乗り合わ
せで通っているが、
事故の心配がある。

認知症等で
免許返納し
移動手段が
必要。

買い物に行き
たくても、移動
手段がない。

通いの場がたくさん
あっても、移動手段
がなくて行けない。

生活支援体制整備事業
＝「地域づくり（大作戦）」!!

目的

〇様々な生活支援サービスを担う事業主体（フォーマル・インフォーマルサービス等）と連携しながら、**多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図る。**

⬇

地域の支え合い(互助)等の「地域の力」で「地域の課題」を解決できる体制を整える。

支え合いの「移動支援」が必要

社会福祉法人の地域貢献活動として法人車両を使って移動支援をしたい

支援団体①
弥生地区

法人車両の空き時間で高齢者の移動支援

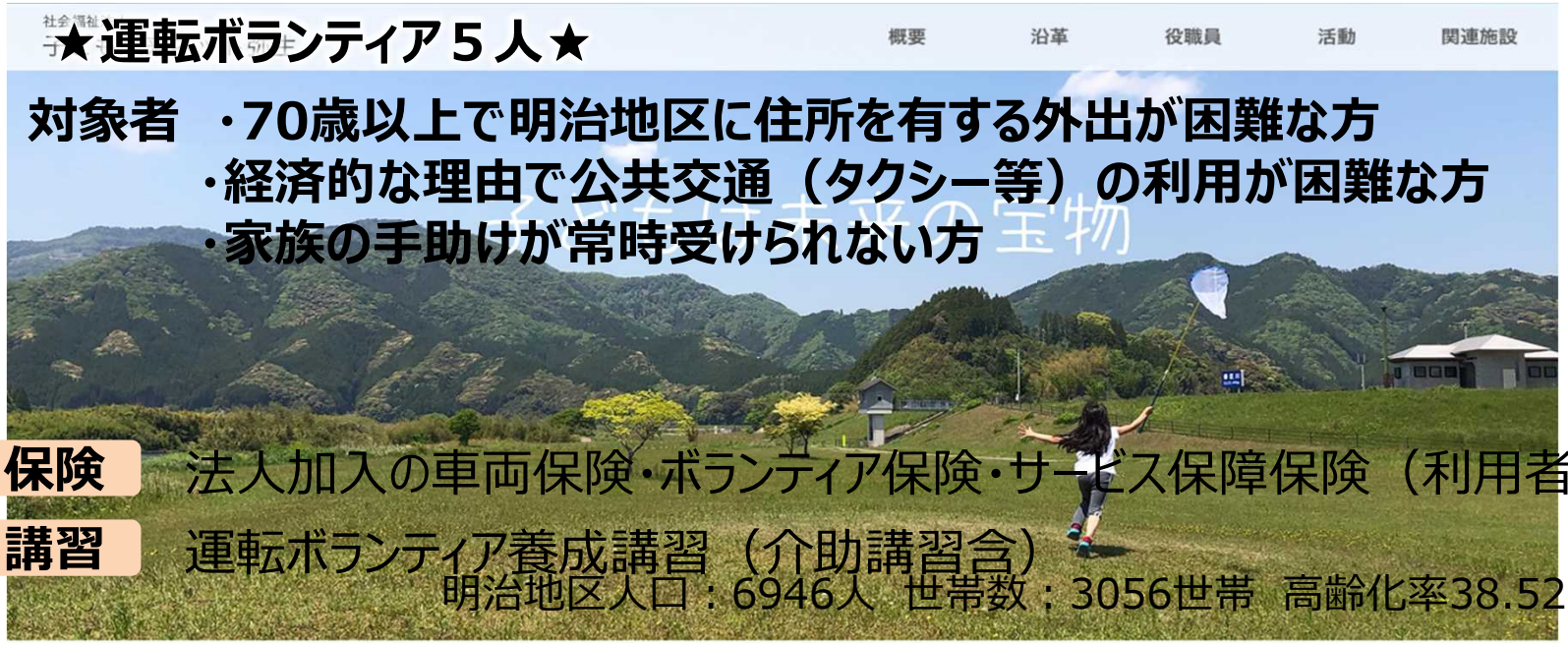
社会福祉法人　こども未来ネット弥生　“地域貢献事業”

特に、山間部で不便な「明治地区」でスタート！

道路運送法【**登録不要（ガソリン代実費程度）**】
自宅から目的地までドア・ツー・ドア。乗合いも可。
土日祝日を除く９時から12時実施（５日前まで要予約）

利用者負担
ガソリン代
実費程度

利用者
登録制



保険　法人加入の車両保険・ボランティア保険・サービス保障保険（利用者負担）

講習　運転ボランティア養成講習（介助講習含）

明治地区人口：6946人　世帯数：3056世帯　高齢化率38.52%（R5.３月現在）

弥生地区のサービス創出に向けて

協議日	弥生地域
R5.5.30	全国移動ネット　第0．5回目支援 佐伯市状況・支援者の紹介・今年度の支援内容やスケジュールなど共有
R5.6.19	定期協議 目的：協議体メンバー顔合わせ・資源の把握・課題の整理・アドバイザーへの質問事項共有
R5.7.11	定期協議 目的：ニーズ調査項目決定・今後のスケジュール・アドバイザーへの質問事項共有
R5.8.8	弥生民児協定例会　ニーズ調査依頼
R5.8.28	全国移動ネット　第1回目支援　「移動・外出支援研修会」 住民主体の取組み事例・制度について・事故への備えと保険 グループワーク（研修会前に講師をモデル地区へ案内）
R5.9.8	定期協議 目的：途中参加者への情報共有 運転ボラ応募者への顔合わせ会の打ち合わせ
R5.10.3	全国移動ネット　第1．5回目支援　事業進捗報告・今後のスケジュール

弥生地区のサービス創出に向けて

協議日	弥生地域
R5.10.6	運転ボランティア説明会 顔合わせ・事業概要説明・支援団体から説明・今後のスケジュール
R5.10.20	全国移動ネット　第2回目支援 「総合事業を活用した移動支援の推進に向けて」聴講
R5.11.10	定期協議 目的：調査票集計結果読み取りを基に、対象者選定基準・利用料・支援形態について協議
R5.12.5	明治地区民生委員向け調査票集計結果について説明
R5.12.6	全国移動ネット　第2．5回目支援 目的：運転ボランティア養成講座打ち合わせと陸運局訪問結果報告
R5.12.12	全国移動ネット　第3回目支援　「運転ボランティア養成講座」
R6.1.11	弥生直川合同協議　目的：公共交通業者対策
R6.1.15	定期協議　目的：規約・チラシ（案）作成
R6.1.16	定期協議　目的：運転ボランティアとの打ち合わせ
R6.2.15	全国移動ネット　第3．5回目支援　事例発表打合せ
R6.2.16	運転ボランティア向け介助講習

支援団体②
直川地区

生活支援ボランティアによる「移動支援」を立ち上げたい。

佐伯市街地までタクシーで 30 分。デマンドタクシーもバス停までしか来ない。バス停まで遠くて使いづらい。そんなお困りの高齢を支援したい！

自ら作業をしたいけど、身体が思うように動かない。
そんなときには直川地域の困りごとを解決する組織

直川地域協力隊

にお任せください！

利用内容

- ◇ 家の周りの草取り
- ◇ 草刈り
- ◇ 剪定
- ◇ 部屋の掃除
- ◇ 窓ふき
- ◇ 電球交換
- ◇ その他(軽作業)

作業名	作業料金(事務手数料込)	
	令和５年９月まで	令和５年 10 月から
草刈り	時間 1,200 円/人	時間 1,300 円/人
剪　定		
清掃(屋外)		
その他		
清掃(屋内)	時間 960 円/人	時間 1,100 円/人
耕　起	8,400 円/10a	9,000 円/10a

※令和５年 10 月１日から作業料金を改定しました。

※団体や法人または作業ができる人がいる場合、急斜面等の危険箇所、過重労働、専門の方(引っ越し業者や造園業等)がいる場合等には作業依頼はお受け出来ません。

【作業の依頼先】 “直川地域のお役に立ちたい”

直 川 地 域 協 力 隊

事務局(直川地域コミュニティセンター内)

電話　58-3393　※まずはお気軽にご相談ください。

新しいコミュニティ組織づくりから「移動支援」について検討

生活支援ボランティア　直川地域協力隊

スーパーが無くなった！市内まで車で30分、買い物支援からスタート！！

道路運送法**【登録不要（生活支援サービスと一体）】**
自宅から目的地までドア・ツー・ドア。乗合いも可。
土日祝日を除く９時から16時実施（３日前まで要予約）

利用者登録制

★運転ボランティア４人★
★ボランティアのマイカー利用★

対象者
- **直川地区に住所を有する70歳以上で外出困難な方**
- **外出に家族の手助けが受けられない方**
- **地域的、経済的な理由で公共交通を利用することが困難な方**

移動支援以外の活動

利用者負担 1,300円/時間

困り事支援　屋内掃除　窓ふき　（1,100円/時間）
草刈りなど屋外清掃　（1,300円/時間）

保険　送迎サービス補償・福祉サービス総合補償・移動支援の団体向け自動車保険

講習　運転ボランティア養成講習（介助講習含）

人口：1809人　世帯数：884世帯　高齢化率56.60%（R5.３月現在）

新しいコミュニティ組織づくりから「移動支援」について検討

・令和3年に、コミュニティ会議に参加していたSCの支援により、地元の３つの社会福祉法人とコミュニティ協議会メンバーで「直川地域福祉推進連絡準備会」という協議体を立ち上げる。
・サロン参加者へのニーズ調査や先進地視察を実施。また、支援検討段階でタクシー会社に説明に行くが、厳しいお言葉を受ける。ニーズ調査もサロン参加者においては、現状困りはなし。助け合いで参加出来ている。何の移動手段に困っているのかを改めて把握する必要があった。協議体は、コミュニティ協議会の福祉部会へと変更。

・行き詰っていた時に「全国移動ネット」のモデル事業に手上げすることが出来た！！

・移動支援のニーズ調査結果から先ずは、「買い物」支援から開始したい。運転ボランティアも講習受けて、準備万端！
あとは・・・公共交通業者へ説明後に実証実験へ

直川地区のサービス創出に向けて

協議日	直川地域
R5.5.30	全国移動ネット0．5回目支援 佐伯市状況・支援者の紹介・今年度の支援内容やスケジュールなど共有
R5.6.22	定期協議　目的：協議体メンバー顔合わせ・資源の把握・課題の整理・アドバイザーへの質問事項共有
R5.7.7	定期協議　目的：ニーズ調査項目決定・今後のスケジュール・アドバイザーへの質問事項共有
R5.8.7	臼杵市・海辺振興協議会の移動支援事業視察
R5.8.28	全国移動ネット　1回目支援　「移動・外出支援研修会」 住民主体の取組み事例・制度について・事故への備えと保険 グループワーク　（研修会前に講師をモデル地区へ案内）
R5.9.20	定期協議 アンケート集計結果分析により「買物支援」からに決定。 対象地域は、直川全域。今すぐに利用したい方は、11名。2層から9.20のアドバイザーへの質問の回答結果を踏まえ対象要件を検討。そのうえで、今すぐ使いたい11名を実態調査することに。運転ボラ顔合わせ会について（10.17）
R5.10.3	全国移動ネット　1．5回目支援　事業進捗報告・今後のスケジュール

直川地区のサービス創出に向けて

協議日	直川地域
R5.10.17	地域協力隊（運転ボランティア）向け移動支援説明会
R5.10.20	全国移動ネット　第2回目支援 「総合事業を活用した移動支援の推進に向けて」聴講
R5.11.6	定例協議　目的：対象者選定基準・ボランティアの選定・運転ボランティア養成講座について・陸運局訪問について
R5.12.4	陸運局大分支局訪問　目的：事業説明と公共交通業者への対応について
R5.12.6	全国移動ネット　第2．5回目支援 目的：運転ボランティア養成講座打ち合わせと陸運局訪問結果報告
R5.12.12	全国移動ネット　第3回目支援 目的：運転ボランティア養成講座
R6.1.11	弥生直川合同協議　目的：公共交通業者対策
R6.2.15	全国移動ネット　第3．5回目支援　事例発表打合せ
R6.2.16	運転ボランティア向け介助講習

モデル地区の事業の流れ　～移動ネットからの伴走・助言をいただきながら～

①支援者の申し出

現地支援の講義を基に支援形態検討
※移動ネットに随時質問し課題クリア

②協議体にて移動支援検討

民生委員協力

運転ボランティア
確保

③高齢者の移動にかかる状況調査実施

公共交通担当と情報共有

④移動支援形態素案検討（料金・保険・対象者）

⑤調査結果を基に支援形態とすり合わせ

規約･要綱作成
受付窓口や予約
フローなど整備

⑥公共交通関係機関への事前報告

陸運局・ タクシー
会社など説明

⑦実証実験・評価・検証

佐伯市公共交通会議

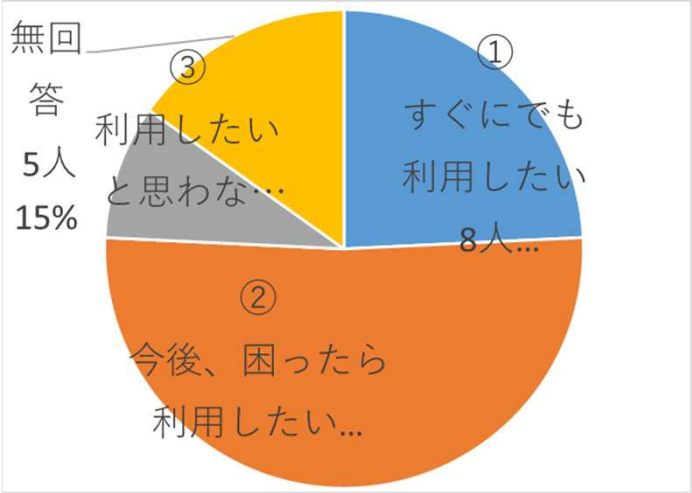
⑧支援開始

注）佐伯市のパターン

【調査結果】ボランティア送迎があったら、すぐにでも利用したい！という回答者に着目しました。

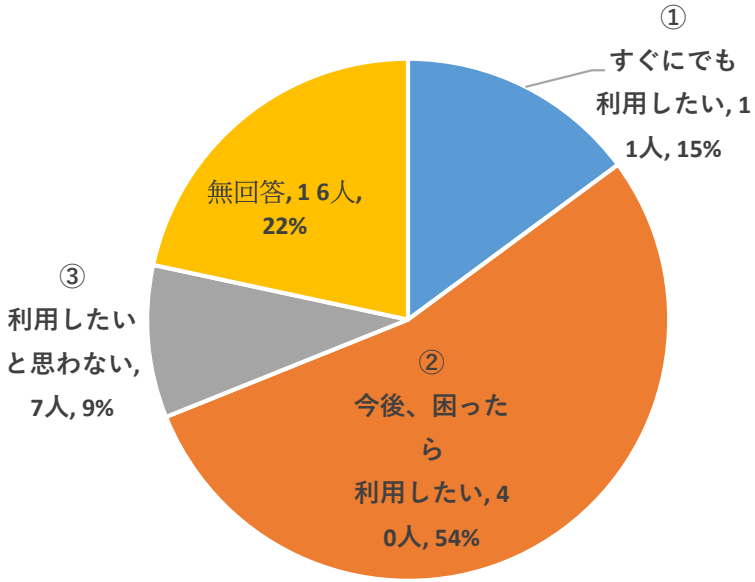
弥生（明治地区）

	（質問6）ボランティアによる送迎があったら利用したいですか。		
1	①すぐにでも利用したい	8人	24%
2	②今後、困ったら利用したい	１７人	52%
3	③利用したいと思わない	3人	9%
4	無回答	5人	15%
	合計	３３人	100%



直川地区

⑫	（質問7）ボランティアによる送迎があったら利用したいですか。		
1	①すぐにでも利用したい	１１人	15%
2	②今後、困ったら利用したい	４０人	54%
3	③利用したいと思わない	7人	9%
4	無回答	１６人	22%
	合計	７４人	100%



高齢者福祉施策

「高齢者にやさしい地域づくり協議会」（兼シームレス会議）地域課題「高齢者の移動支援」の解決に向けて互助のサービス創出への取組みについて協議、実施し、取組み結果の報告。

施策反映

第1層協議体（生活支援体制整備部会）で互助のサービス創出について協議・報告

公共交通施策

佐伯市地域公共交通計画
コミュニティバス・デマンドバス利用促進

使いづらさを感じている高齢者の声
- 乗りたい時間に便がない。
- デマンドバスの乗り方がわからない。
- バス停までが遠い。
- タクシーは料金が高い。

！サポートで公共交通が使える高齢者もいる！

公共交通担当との連携必須

先ずは実証実験から

大分運輸支局相談

地域の公共交通業者※タクシー事業所に取組みについて説明

佐伯市公共交通会議で報告（審議なし・報告のみ）

移動支援開始へ

注）佐伯市のパターン

最後に…行政としてできること

支援者や協議体の思いを大切にしたい
運転ボランティアの士気を下げたくない
SCのやる気と熱い思いも活かしたい

移動支援サービス創出に向けて・・・「協議体へのつなぎ役」

★公共交通施策との連携
★地域公共交通業者との調整
★「移動支援」の総合事業化を視野に検討
★生活支援コーディネーターとの連携

<u>介護予防の取組みと地域課題解決に向けて、今後もSCと連携</u>

ご清聴ありがとうございました。

道の駅 やよい

竹田市の移動支援の取り組み

令和6年2月21日(水)報告会用資料

竹田市の移動支援についての現状

■竹田市人口19,770名（R5.3）　■高齢者人口　9,671名
■高齢化率　49.1％

高齢化による免許返納などに伴い
移動困難者が大きな課題となっている

【移動に関する竹田市の現状と課題】

- バスの便が少なく、バス停や駅が遠い
- 通いの場への送迎はタクシー会社へ市が委託
- 公共交通との兼ね合い
- デマンド交通の実施（現在、実証運行も含め３地域）
- 公共交通やデマンド交通とのつなぎが必要
- 障がい者の移動事業者の撤退
- タクシー会社も運転手が不足している

令和4年度
介護保険制度等を活用した移動支援の検討

- 介護保険サービス訪問型サービスDの検討に向け、プロジェクトチームの立ち上げ

- 竹田市の目指す高齢者移動支援のあり方
  ①　介護予防事業の利用促進
  ②　買い物や病院等
- 生活支援のための移動支援
- 事業展開にむけた課題の整理
- 人材の確保

ケアマネや市内事業所へ
移動支援に関する実態調査の実施

先進地事例（山口県防府市）の
取組を参考にした制度の検討

高齢者の生活課題の状況（CMの声）

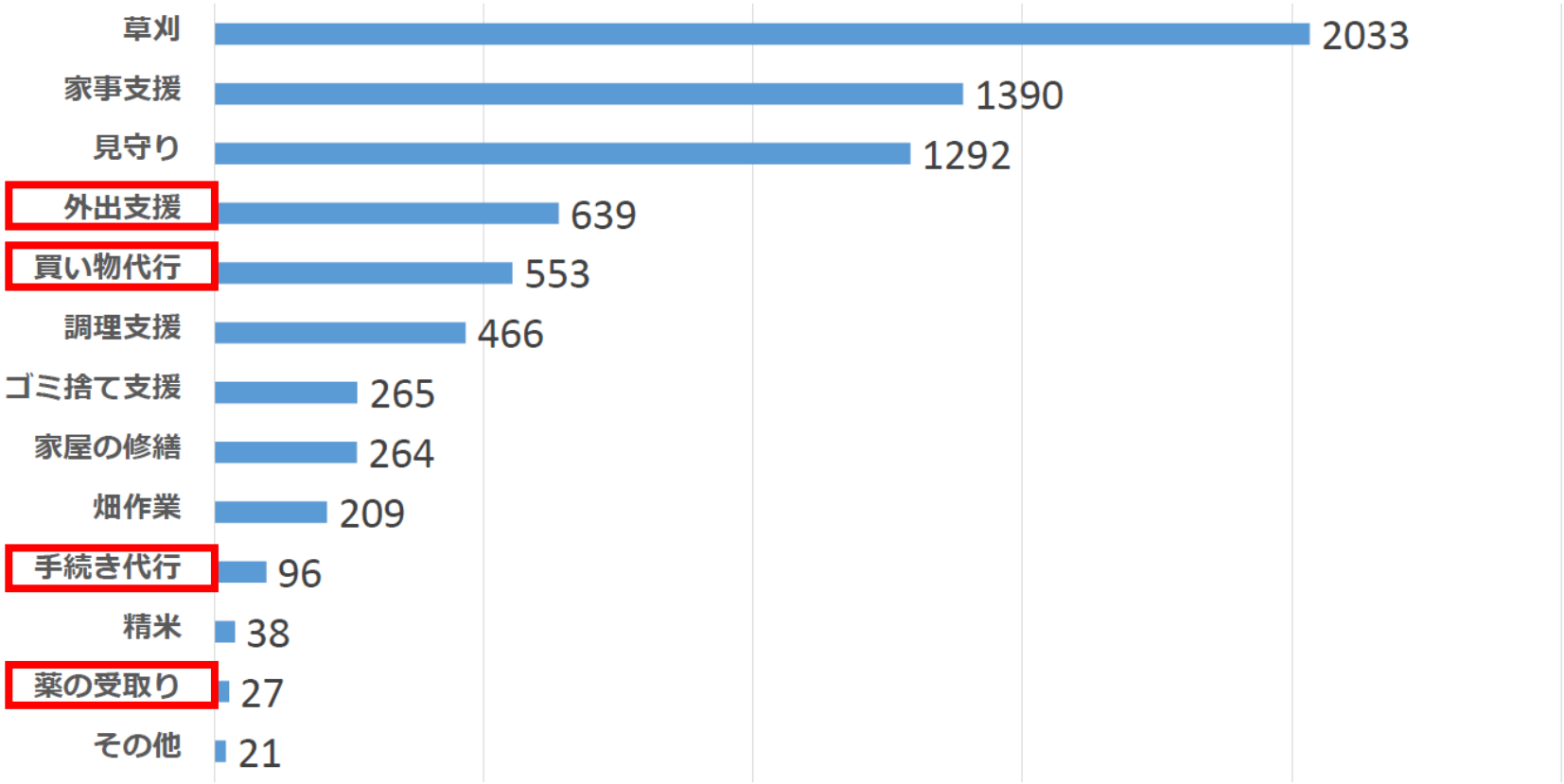
・タクシー運転手に乗降介助を頼めないため、ケアマネの対応が必要。
・独居、親族が対応困難。子どもが県外など身内のサポートがない。
・大きなスーパーで買い物をしたいと思っても(判断能力や支払い能力はあるのに)、付き添い支援等が必要な場合、環境的に難しくあきらめてしまい、引きこもりになる可能性がある。
・在宅高齢者は付き添い支援が必要で移動手段が限られているため、元気な頃にしてきたこと(自分で服を選ぶ、食品を選んで買う、外食する、娯楽を楽しむ等)をあきらめているのが現状。

生活支援(通いの場や、買い物、受診、金融機関等での付き添いサポート)と一体的に提供されると安心して外出できる！

・自分でできることが増える
（介護予防と地域での役割）
・地域とのつながりが持てる
（孤立を防ぎ、顔の見える関係）

有償ボランティア活動(生活支援)の現状

生活支援実施件数(全体)11年間(H24～)



・介護サービス事業所の縮小（ヘルパーの高齢化と担い手不足の深刻化）：全国で課題になってくる。
・独居高齢者・高齢夫婦世帯の増加で外出支援や買い物代行などのニーズも増加。

令和5年度
介護保険制度等を活用した移動支援の検討

県の生活支援体制整備事業を中心としたスーパーバイザー派遣事業（移動支援）を活用し、２本の柱で取り組んでいく

介護保険等を活用した事業展開に向けた制度設計

- 公共交通やデマンド交通とのつなぎや役割分担
- 地域住民が活用しやすい制度設計
- 事業展開に向けた施策の制定

住民による移動支援のしくみ化

- すでに活動として買い物支援に取り組んでいるコミュニティひろばi-meijiをモデル地区に選定
- ボランティアの活用を目指し、活動のしくみ化を目指す

まずは「知ること」からはじめよう

アドバイザーであるNPO法人全国移動サービスネットワークによる**移動・外出支援勉強会の開催**（R5.7．１７）

〇住民主体による移動支援の取組や法制度、事故に対する備えと保険などについて学び、住民主体の移動支援に興味をもつきっかけとなった。
〇市内１７地区社協へ呼びかけ、多くの地区社協役員が参加。関心が高いことを感じた。

〇研修会後、アドバイザーとモデル地区であるi-meijiとで、活動についての悩みや心配事などざっくばらんに意見交換。活動を継続・維持していくために何が必要か、助言をいただいた。

竹田市の目指す移動支援とは

〇アドバイザーとのオンライン協議よる気づき

目指す移動支援の目的は何かをしっかりとらえること！という助言により、訪問サービスDの視点から訪問サービスBの視点へ。

日程	会議名	内容
6月7日	オンライン協議	・竹田市の選定地区の状況説明と課題の共有 ・目標の設定
10月6日	1.5次ZOOMミーティング	・モデル地区の進捗と今後の支援 ・次年度に向けた市の支援策について
10月20日	総合事業等を活用した移動支援の支援策に関する学習会	・医療経済研修機構　服部氏　講演 ・竹田市の概要等説明　・質疑応答

ちょっとした困りを支える活動の継続支援

地域の中のちょっとした困りは、ゴミ出し・草刈り・買い物・精米・外出や通院時の付き添い…。

【ちょっと困りの生活支援】
・暮らしのサポートセンターによるお互い様の支援活動
・地区社協や地域コミュニティによる地域課題への取り組み

⇒大事な活動！継続していきたい！
　でも継続するには担い手や活動費の確保などの課題も多い

未 住民主体による支援
(訪問型サービスB)

地域での話し合い
(課題共有や対策検討)

体制づくり
(介護保険事業・生活支援体制整備事業等)

生活支援
ニーズ調査

人材発掘調査

団体が活動を継続できる
そして多くの人が参加しやすい

未 付き添い支援や
運転の講習

ボランティア
養成講座

住民が住み慣れた地域で、支え合いながら暮らし続けるための地域づくり

社会保障費
の抑制

健康寿命の延伸
介護予防と重度化防止
地域力の強化

ソーシャル
キャピタル※
の醸成

※ソーシャルキャピタルとは＝「社会関係資本」
「信頼」「社会規範」「ネットワーク」といった人々の協調行動の活発化により社会の効率性を高めることができる社会組織に特徴的な資本

【個】
(生きがい・活動量の増加)
社会参加の増加
自分でできる活動の幅が広がる

【地域】
(ネットワークの増加)
社会資源の創出・継続
顔の見える関係づくり

今ある住民主体の活動を継続できるように支援する：訪問型サービスB

コミュニティひろばi-meijiの買い物支援事業

■竹田市初となる地域運営組織として
　令和２年9月に『コミュニティひろばi-meiji（イーメイジ）』発足
■明治地区人口５９２名（R5.11）
■高齢者率５３．３％　　※ニュータウンを除くと６５％！
■立ち上げに伴い作成した、地域づくりの指針となる５年間の地域計画書の中でも移動支援の促進、免許返納後の支援と掲げている。

移動に関する現状について
地域で実態調査を実施！

買い物支援事業を開始（令和元年10月～スタート）
　対象者：明治地区在住の高齢のみの世帯の方
　　移動手段がない方、自分で買物ができる方
　実施頻度：月1回（第3日曜日）
　平均参加者：７、８名

取り組みの現状と課題について

現　状

- 役員のみで対応している
- 利用者は増加傾向にあるが
  マンパワーと車両の不足から活動を制限
- 月1の楽しみの場となっている
- 無料で実施
- ボランティア人材の活用がうまく
  できていない
- 活動報酬なし

改善に向けて

- 事業の概要書作成
- 車両の貸し出しについて検討
- 事故等への備え
- 運転講習会の開催
- 人材活用の仕組み化
- 事業の活用（補助金等）

仕組みづくりに向けて

〇アドバイザーからの助言

〇佐伯市への運転ボランティア養成講座視察（R5.１２．１２）

参加者との交流も！

運転実技も体験

持続可能な活動に向けて

- 事業の概要書・手順書を作成し、
  ボランティアが活動しやすい仕組みをつくる
- ボランティアポイントの付与
- 令和６年度に明治版運転講習会を開催
- 訪問型サービスB活用の検討

明治地区買い物支援事業　実施手順

（1）実施日案の設定（自宅で可）

（2）運転手の確保（自宅で可）
・事務局 line で運転手２名を募る
例文：○月の買い物支援実施日ですが、○日の日曜日に行いたいと考えています。運転手として活動できる方は、ご記入ください。
※ 運転手が確保できない場合は、別日で再度調整、確保できるまで繰り返す
※ LINE グープで調整　⇒勉強会実施予定

（3）同乗者（見守りのみ）の確保（自宅でも可）
・登録ボランティア line で、同乗者２名を募る
例文：○月の買い物支援実施日ですが、○日の日曜日に行います。同乗者として活動できる方は、ご記入ください。
※ LINE グープで調整　⇒勉強会実施予定

（4）買い物支援希望登録者への実施日の案内（分館作業）
・案内ハガキ送付（開催日以外は定型印刷、開催日は手書き記入）
・利用申込の連絡先を明治分館（62-3164）又は、事務局携帯（○○○-○○○○-○○○○）とする

（5）利用者確認、確定（実施日の７日前まで、分館作業）
・いつも利用する人、忘れやすい人には電話で利用するか確認
・利用申込の打ち込み
（分館 PC、Excel：買い物支援利用者名簿、シート名：○月分名簿）

（6）運転手、同乗者とルートの確認
※利用者数により１台での実施となる場合は、運転、同乗協力者で再度調整を行う。
・ルート確認（利用者の人数と、住所によって１～２台とする）
・車両の確保（１台の場合は、酒井会長７人乗り）
（２台の場合は、酒井会長及び、運転協力者の車両）
※（今後は、４台で検討）

（7）保険会社へのお報告
毎月、保険会社へ実績を報告する。

今後の展望

　移動支援へのニーズが高まる中、今回の事業での取組みをきっかけに、移動支援に興味があった地区社協からも反応があり、改めて移動支援に関心が高いことが分かった。

　今後は、移動支援に興味をもつ団体がi-meijiの活動を参考に、今まで踏み出せなかった一歩を、まずはやってみよう！という意欲につながることを期待している。そのためには、訪問型サービスBの制度が活用につながるよう、SCとして地区社協やその他団体へ制度と活用について丁寧な説明を行い支援していきたい。